

函館線 銭函駅構内で発見された脱線による痕跡に関するその後の調査状況について

平成 29 年 12 月 7 日
北海道旅客鉄道株式会社

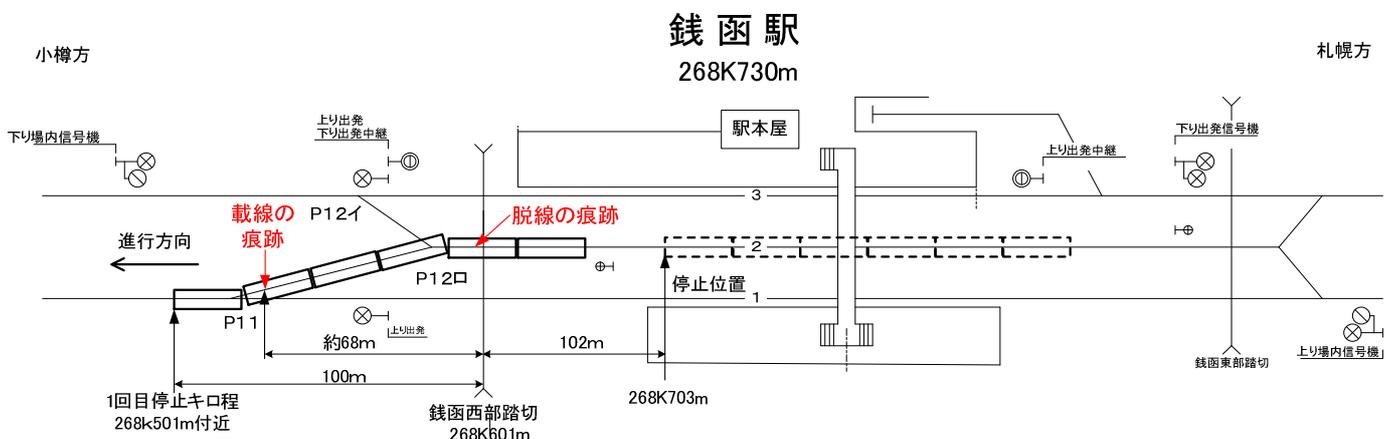
1. 発生日時 平成 29 年 12 月 6 日(水) 5 時 31 分頃
2. 発生場所 函館線 銭函駅構内 268k501m 付近
3. 関係列車 回 5854M 列車 (手稲駅 5 時 23 分発 小樽駅行き 回送列車) (6 両編成)
4. 前頭車 クハ 733-3201 号 (札幌運転所所属)
5. 概況 本列車運転士は、銭函駅定時発車後、速度約 30km/h で走行中、ポイント 12 口付近で異音を感知、同時に運転席モニターにブレーキの異常が表示されたので、直ちに停止しました。車両点検を行ったところ、異常がないため、指令の指示により運転再開しましたが、モニターにブレーキ異常が繰り返し表示されたため、前途の運転を取りやめました。

その後、札幌運転所に収容した当該車両の車輪に接触痕が発見されたことから、銭函駅構内で再度線路点検を行ったところ、銭函西部踏切付近から脱線し、小樽方へ約 68m 先のポイント 11 付近で載線したと思われる痕跡を発見しました。

この関係によるお客様、乗務員に怪我はありませんでした。

6. 原因 調査中
7. 時系列
 - 5:31 頃 回 5854M 列車、銭函駅発車後、異音と運転席モニターにブレーキの異常が表示されたため停車 (268k501m 付近)
 - 5:48 頃 運転再開後、再度、ブレーキの異常が表示されたため停車 (2 回目) し、車両点検
 - 7:08 頃 その後も同現象が繰り返されたため、前途の運転は不能と判断
 - 10:11 頃 回 5854M 列車、銭函駅まで退行開始
 - 10:19 頃 銭函駅 2 番線まで退行終了
 - 10:45 頃 銭函駅構内のポイント 12 口、及び 11 の部品交換作業開始
 - 11:50 頃 当該編成は、回送列車として札幌運転所に収容
 - 12:22 頃 銭函駅、ポイント部品交換終了し、上り線運転再開
 - 13:20 頃 札幌運転所にて車両調査開始
 - 14:00 頃 調査結果から車輪に脱線したと思われる傷を確認
 - 14:50 頃 銭函駅 2 番線、再度線路点検を行うよう保線所に出動要請
 - 16:20 頃 列車を抑止して線路点検開始
 - 18:58 頃 線路点検終了、脱線の痕跡と載線の痕跡と思われる傷を発見

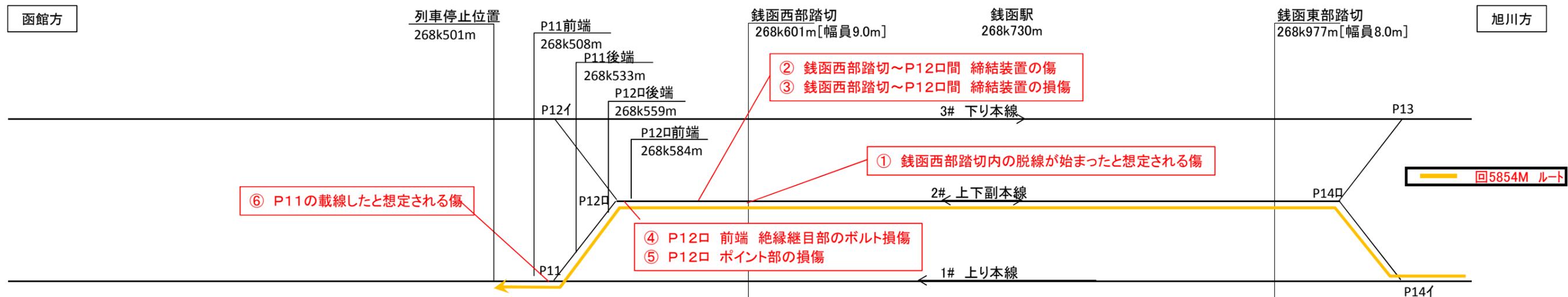
8. 構内略図



- 別添 資料 1 函館線 銭函駅構内における地上設備の主な損傷状況について
資料 2 車両の損傷状況・車輪の接触痕の状況について

函館線 銭函駅構内における地上設備の主な損傷状況について

【資料1】



⑤ P12口 ポイント部の損傷



④ P12口 前端 絶縁継目部のボルト損傷



① 銭函西部踏切内の脱線が始まったと想定される傷



② 銭函西部踏切～P12口間 締結装置の傷



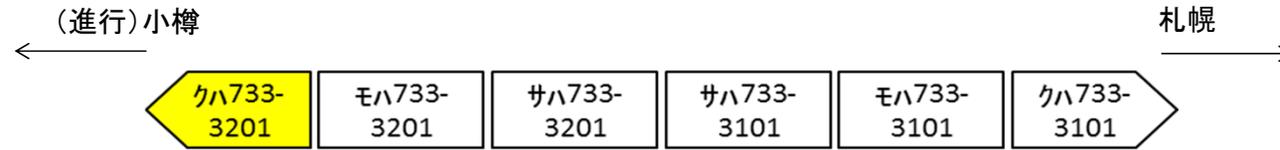
③ 銭函西部踏切～P12口間 締結装置の損傷



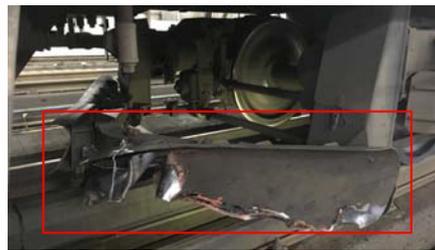
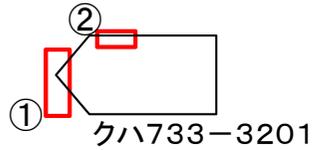
⑥ P11の載線したと想定される傷



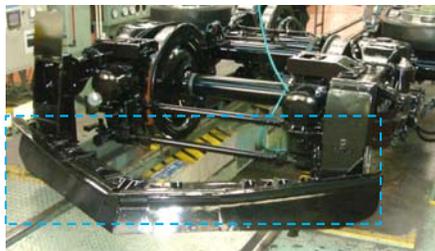
車両の損傷状況・車輪の接触痕の状況について



【車両の損傷状況】



①スノウプラウ 破損

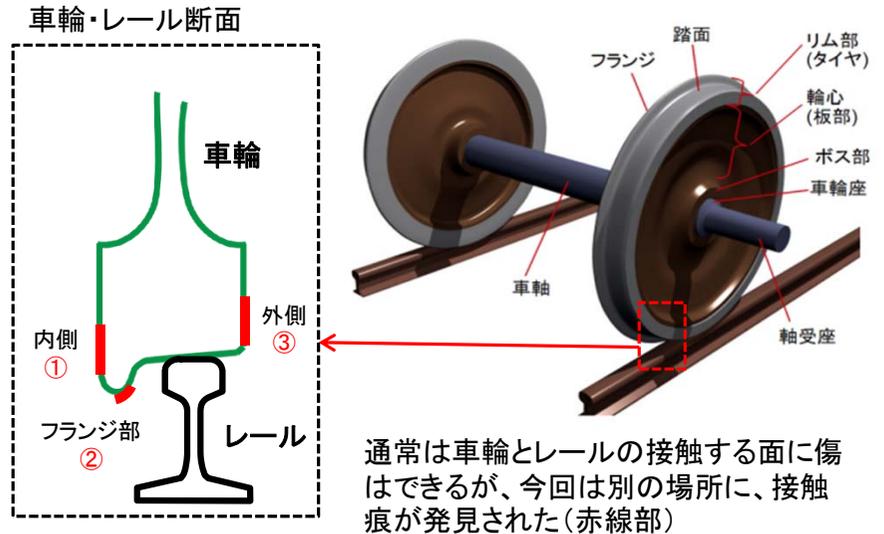
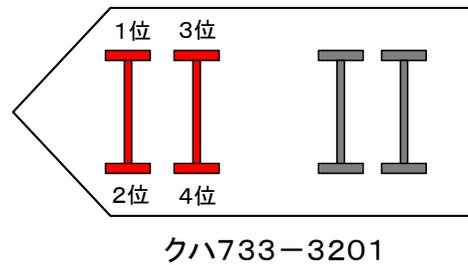


(参考 通常の状態)

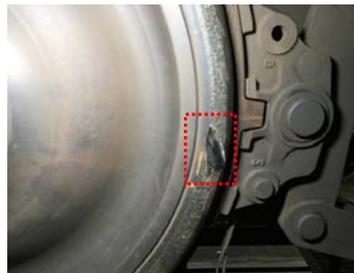


②速度発電機
(車両の速度を検出する部品)
※内部検査により破損を確認

【車輪の接触痕の状況】



1位



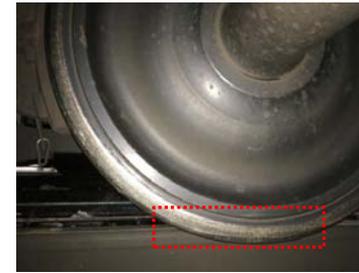
内側①に接触痕

2位



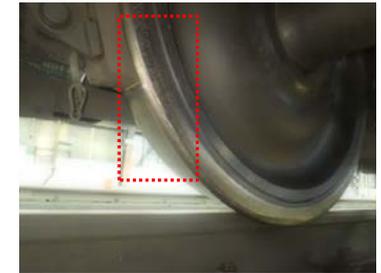
フランジ部②、外側③に接触痕

3位



内側①に接触痕

4位



内側①に接触痕